

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒。「料理の鉄人」や「ニューデザインパラダイス」、映画「おくりびと」など数多くのヒット作品の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



サポートメンバーの
下川氏と共に

「地域のオリジナリティーはあるか?」「コンセプトやターゲットは明確か?」など、サポートメンバーから真剣なアドバイスが行

「世界」へ広く発信する。日本のモノづくりを支え発

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援



1月18日、プレゼンテーションにて

値を生み出そうとしているレクサスのブランド思想の1つである「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。奈良県選出の匠、音響設計・製作の鶴林万平さんの思いと、完成したプロダクトを紹介する。

「伝統を守りながら」「新しい」感覚やテクノロジを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。日本のモノづくりを支え発

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:レクサス)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりの挑戦に挑む「匠」を応援する。

吉野杉を使った14面体スピーカーで日本の音と風景をつつなぐ

鶴林 万平 奈良県/音響設計・製作

「無指向性」スピーカーの可能性を追求

鶴林さんは以前、奈良県内のスピーカー製造会社に勤務しユニットやシステムの設計、中国にある生産工場の生産管理などを手がけていた。数年後に独立し、ソニハウスのという屋号で独自のスピーカー製造と販売を始めた。

既存のスピーカーは特定の方向に音を発生させる「指向性」が一般的。音は360度全方位に広がり響くもので、本来の音の発生で電子音を聴いたらどうなるかとの興味から



プレゼンを行う鶴林さん

12面体スピーカーを製作した。このスピーカーの特徴「無指向性」は音が不明瞭になりやすいため音楽ホールの音響測定など特殊用途に使われ、音楽鑑賞には向いていないと言われてきた。その概念を壊して音楽を聴くための理想のスピーカーを作ろうと考え



バイヤーと商談中の鶴林さん

家族や仲間、居合わせた人たちが音楽とその時間、場を楽しむ。そんな空間にふさわしいスピーカーを作りたいたいという思いから平成19年自



14面体スピーカー「sight-YOSHINO-version」

日本人の感性に合う音の風景を目指す

これまでに商品化した3つのスピーカーにはそれぞれ「風景」を表す商品名「scenery」「sight」「view」と名付けた。音楽が表現するさまざまな風景を生活の風景へゆるやかにつなぐという意味だ。音楽を奏するときその場で聞けるあらゆる音を取り込む意識で音楽を捉えている。それは自身の指向であり日本人の感性であると考えた。

小さな繊細な音を応援

今回は奈良とのかかわりを深めるよい機会になった。また、全国の匠と交流することで様々な刺激を受けることができ貴重な経験になった。

現代の音楽はジェットコースター的な強い刺激を求める傾向にあるが、鶴林さんは「小さく繊細な音を応援したい。今回のプロジェクトを経て、次は『音とプロダクト』両方のさらなる飛躍を目指したい」と意気込みを語った。



「家宴-I EUTAGE」



「14面体スピーカー」制作の様子



鶴林 万平
奈良県/音響設計・製作

sonihouse主宰。2007年sonihouseを立ち上げ、「音と空間、聴き手の中に豊かな循環を生む」をコンセプトに活動する。空間における響きの再現について考え抜いた12面体スピーカー“scenery”をはじめ、オリジナルスピーカーの設計・製作をする。坂本 龍一+YCAM InterLab『Forest Symphony』等、音にこだわるアーティストによる音響装置としての採用例多数。

